

- ◎久しぶりのポンポン山である。2.3年前は、自転車で摂津峡下の口まで、そこからポンポン山を往復するコースを何度も歩いていた。このコースも家から出て帰るまで7.8時間もかかりけっこうしんどい山行であった。今日のコースは阪急山崎駅からぐるり反時計回りに高槻駅までのコースである。ここは京都西山と呼ばれる山系で、天王山付近は300M足らずの低山、そこからポンポン山に向かうと600Mぐらいに上がる。都市近郊の低い山なので強者が右や左にルートをつけ、昔からの登山道がより複雑になり、「え 昔 通った道 どっち」ということが多い。今日もそれを確かめたかったが、やはりアレレが2回ほどあった。
- ◎山行7時間、35700歩、24.3キロ、数字を見るとなかなかのものであるが、北小松に比べ筋肉痛はない。
- ◎年末の28日に美香さん宅のお誘いで、日生中央のご自宅でのBBQに呼ばれた。庭にでっかいストーブを置き薪を燃やし、その中で肉や芋を焼くスタイルである。川西市は縁の遠いところだったが、衣川さんの職場が光風台に、その紹介で絵のリースをさせてもらっている箕面病院が止々呂美に、去年展覧会をした黒川カフェが妙見ケーブル下にある。去年黒川カフェで3万円の絵を買ってもらったが、「お金をください」という言葉が言いにくく困っていたが年末の最後に振り込んでいただいた。お神酒もいただき暗くなるころに九州に同道した斎藤さんと十三まで電車で一緒した。
- ◎8時前に阪急山崎駅から歩き始めた。実は4日前の29日にここにやって来た。30日と31日は車を出してくれとの頼みがあり、なら今から行くかと10時ころ家を出た。その時は天王山をハイスピードで5時間ほど歩きすっきり爽やかに帰った。その時JRの踏切を渡り線路沿いに山崎聖天さんから登った。今日もあの道で行こう、駅から京都の方に道路を進んで左に曲がりなんとかJRの線路を超えれば山崎聖天さんにたどり着くのではとスマホの地図を出して進んだ。ここか、まだか。と進みながら左に曲がると、車の道路は行き止まりだが人が通れる細い踏切があった。それを越していくと目的の山崎聖天さんがあり、瓦窯跡公園に出た。
- ◎大山崎瓦窯跡：平安時代の都、京の建造物用の瓦だったようだ、なんと吹田の岸部にも遺構があり、淀川を使って物流していたようだ。それ以外に京都にも2か所瓦窯跡が見受けられる。
- ◎9:15 小倉神社分岐の手前に手造りのベンチがありそこで一本取った。左に行くと水無瀬と書いた小さい木札があるが、どこに出るのだろうか。空は青く天気はものすごくいい。予報士が3時頃にポンポン山では雪かもとおぬかしである。傘を入れてきたが雪を見たいものだ。
- ◎今日の目的は、登山道と地図のすり合わせである。先日来国土地理院地図、ヤマコレ、ヤママップ、などを見てみるがどうもしっくりこない。帰って今パソコンを開いてスマホの軌跡とすり合わせているが、スマホの解像度が悪くこれまたはっきりしない。あと何度か通ってみなくてはすっきりしないかもである。山の中に重機で造った林道がいくつかあり、これも何のためか、どこに通じるのか、定かでない。
- ◎12:30 ポンポン山てっぺんにやって来た。途中、「1時ぐらいに てっぺんか そこで 飯にしよう」と予想していたが、早く到着した。予報士にの話では3時頃から雪になるということだったが、お陽さんがポカポカ、青い空に白い雲がぼかりぼかり、先日話した天使が駆ける空模様、楽しげで爽やか、お〜いと叫びたくなる、呼びかけたくなる空である。何日か前に買ったカップ麺に湯を注ぎ弁当にふたを開けて食べ始めた。この天気、正月ということもあって、この有名ポイントにはわんさか人がいるかなと思ったが、たった一人でその方もすぐに降りて行かれた。4分と書かれている麺の蓋を開けたがなんだか上手くできていない、湯の温度が低すぎたのかもしれない。テルモスが作動しなかったか、湯がまだ沸騰してなかったのか、堅くぼさぼさしている麺を喰った、アウトドアでは仕方がないか。キャンプの料理番組を見ていると皆さん、凝った料理、丁寧な作業、手順通りに美味そうに作っておられる。こういう時は衣川さんを連れてこないといけないねと思ったが、「おりゃあ 料理人 じゃねえ」というか、「いやあ いくよ 造るよ 美味いもん」というかね。
- ◎「おとうさん 明日 写真撮りに 来な あかんで」本山寺で明日の準備をしていた中年中肉の坊さんがオレのカメラを見ていった。「うん 明日やねえ」と答えた。1月3日、ここで有名な護摩供養がある。「本山寺の暴走 坊主め」細い道を車で飛ばす坊さんに怒っていたが、彼がそうなら仲良くしたいね、ほほほ。

◎政治の事には無関心なオレですが、正月の3日にアメリカ軍がベネズエラの大統領夫妻を拉致してニューヨークに運び、裁判を受けさせるという事件が起こった。これはびっくりニュースだったが、諸々解説を読むとアメリカ側は何か月も前から実行の計画を練っていたらしい。「アメリカに麻薬を運んでくる国」「アメリカが嫌いだという国」「アメリカのモノだった油田を奪った国」「選挙もまともにできない国」そんなこんなを並べ立てても、「そらあ 理屈が とおらんぞ」とオレは思うが、みなそう言わないね、叫ばないね。

◎軍事経済が抜きん出た大国が、近所の国の大統領を拉致して自国に連れ帰る、これからは我々がこの国を運営していくという。「え ほんまかいな そんなことが ありか」と驚かされた。

◎イスラエルとガザの話は複雑すぎてわからない。時空の難問、1000年2000年の歴史、領土、土地、聖地のこともわからない、ということでちょっと置いておく。

◎数年前に、ロシアがウクライナに戦車軍を送って弾圧しようとした。「ソ連時代 ウクライナは ソ連の中にいたんじゃないの?」「一種の 内戦なの?」これも徐々に解説を読んでいくと、時空の問題がありわかりにくい。ロシアのプーチン大統領の弁では、「ウクライナは 元々 ロシアだった」「ウクライナには ロシア人がたくさんいる ウクライナは ロシアになるべきだ」とかなんとか。世界の多くがロシアを非難して、ウクライナを助けようとした。日本もそうしようとしたが、鈴木宗男さんはロシアを擁護した、これはえらいね、後々効いてくるかもね。

◎アメリカ、ロシアの大国は、軍隊を動かすが、中国はまだ軍隊は動かさない、とはいえ舌鋒鋭く主張をしている。中国が思い切って軍隊を動かし始めると、世界はよりややこしくなりかねないね。

◎麻薬：トランプ大統領がベネズエラは麻薬の輸出国だという。ゴールドトライアングルという言葉を知った。ミャンマー・タイ・ラオスの国境付近がケシ栽培が世界一だそうだ、アフガニスタンを抜いたそうだ。中国人もオーストラリア人も麻薬から作ったヘロインが好きなようだ。日本でも覚せい剤や大麻で時々ニュースをにぎわしているが、オレのまわりで薬物常習者はいない。アメリカ在住の仲野さんが大麻を楽しんでいた。世界のニュースでは、薬物のアメリカへの輸出国は、ベネズエラは低く、メキシコ、コロンビアが多いそうだ。

◎ネット氏：アメリカ人は麻薬が好きなようだ、アメリカでは薬物が安く買える、社会が依存症に対して目を向けてくれる。目を向けるということは、「依存症は 治そう みんなで」という空気の事。「ちょっと すってみな 気持ちがいい すっとする 気が晴れる 活力が湧く」「それじゃ ちょっとやってみるか」てな感じで進んで行くのだろうね。オレは酒のみだったが、薬は欲しいと思わなかった、いたずらに手を出してみようとも思わなかった。

◎ベネズエラは石油埋蔵量が世界一ながら、ほとんど生産できていない。石油生産には資金と技術が要るらしい、現ベネズエラにはこういう能力が不足しているらしい。だからアメリカがこれから乗り込んで、というのはちと筋が違うのでは。しかもアメリカが乗り込んで莫大な資金がいるのは変わらない。このこと、経済のことはわからない。

◎近所まわりを見て、「おまえんとは 氣にくわん オレの云うことを 聞け」なんて昭和初期時代でも、「あいつ ばかかあ」と罵られた。これを戯曲化したのがトラさんシリーズなのかね。

陽成院御代滝口金使行語 20-10<やうぜいのいんの みよに たきぐちこがねの つかいにゆく こと>

◎長い話である。砂金運上使の道範が陸奥の国に下向途中、信濃の国で、郡司の家に宿をとった。郡司は待ち受けおおいに歓待してくれる。食事が終わると家主の郡司は家来を連れてどこかに行ってしまう。

道範は寝つけぬままあちこち見歩いていると、二十歳ぐらいの美しい女が寝ていた。あれほど歓待してくれた郡司の妻にちょっかいを出してはいけないと思うが、がまんもならず傍に寄った。道のりは着物を脱ぎ捨て女の懐に入った。女は拒みはしたものの、あらがいもしなかった。そのうちマラ（門構えに牛：この漢字出てこない）が痒くなり探してみると毛だけでブツがない。びっくり仰天して女の素晴らしかったことが消し飛んだ。男は部屋に帰ったがやはりブツはない。家来に、「素晴らしい女がいる 行ってこい」とけしかけたが、まもなく家来も怪訝な顔をして帰ってきた。8人の家来が順次怪訝な顔をして帰ってきた。

男ら一行は翌朝、訳も分からず慌てて出立した。しばらく行くと後ろから郡司の家来が追いかけてきた。「なんでこんな大事なものを忘れていかれる」白い紙に包んだマラが9個入っていた。

男は陸奥国で用事をすませ帰途また郡司宅に宿をとった。たくさんの土産を渡し、「あの 不思議な術を教えてください」と頼んだ。

男は京に帰り、用事をすませて三度（みたび）土産も持って郡司のところにやって来た。「マラが取れる 術を教えてください」「教えましょう 明日から 固く 7日間 精進 沐浴 してください」

7日が経って、郡司は男を川に連れてきた。「川に流れつくものを 抱きつきなさい」しばらくして大きな大蛇が流れてきたが、男は怖くて逃げてしまった。「それではもう一度 抱きつきなさい」次は大猪が走ってきた。男は夢中で抱きつくとなんとそれはただの朽木だった。

「あなたは マラを失う術は 失敗したが 幻術は取得した」

男は京に帰り、みなの前で履物を犬に替えたり、草履を鯉に替えたりしていた。帝がこれを聞き、帝も男にこの術を習った。ただ世間の評判が悪い。「帝ともあろう方が 三宝を忘れ 幻術を使うとは・・・」

◎道範、旅宿ニシテ、不被寝（ねられ）ザリケレバ、ヤハラ起キテ、見行（みあるく）ニ、妻ノ有ル方ヲ臨（のぞ）ケバ、屏風几帳ナド立並タリ。畳ナド浄気（きよげ）ニ敷テ、厨子二階（づしのにかい）ナド目安クタリ。虚薫（そらだき）ニヤ有ラム。糸香バシク匂ハセタリ。田舎ナドニモカクアルヲ心悪（こころにくく）思テ、ヨク臨（のぞ）ケバ、年二十余許（としはたちばかり）ノ女、頭ツキ姿細ヤカニテ、額ツキヨク、有様此ハツタナシト見ユル所無、微妙（めでたて）臥タリ。道範はこれをみて、このまま見過ごしてしまう気になれず、あたりに人影もないので、そばによって抱き寝をしてみ咎める者もないと思い、そっと遣戸を開けて中に入った。だれが、と咎める者もない。灯台は几帳の後ろに立ててあるので明るい。あれほど心を込めてもてなしてくれた郡司の妻にこんなやましいことをすると思うと、もうしつないような気もしたが、女の様子を見るとどうにも我慢できずに忍び寄るのだった。

さて、女に寄って添い臥したが、女はひどく驚いた様子も見せない。袖で口を覆って、臥している顔は、そばで見れば見るほどあでやかで、道範は天にも昇る心地がした。九月十日ごろのこととて、着物もあまり重ねていない。紫苑色（くすんだ紫）綾衣一重に濃い紅の袴を着け、それにたきしめた香の匂いも香ばしく、あたりのものまで匂い移っている。道範は自分の着物を脱ぎ捨てるや女のふところに入った。女はしばし着物を引き合わせて拒む様子を見せたものの、むきあってあらがおうともしないで、そのままふところに入った。そのうち男は、マラがしきりの痒くなった。そこで手で探してみると毛だけでマラが無い。

◎三宝：仏教では、仏・法・僧（ブツポウソウ）。 道教では、道・天・地。鏡餅など乗せる台。

◎この時代、幻術、妖術、念力、ケタイなものが信じられ、崇められてたのかもね。

◎ホンジュラスに住む友人のNさんが、「近所の橋の下なんかにはベネズエラの難民が夜露を凌いでいる」「アメリカの侵略で救われる国民が喜んでる人が多いかも」「ホンジュラスも先日の大統領選ではベネズエラのように不正が行われるのではと危惧していたが監視体制が働き不正はなさそうで新しい人が大統領になった」という。

◎ユニセフ：UNHCR:ベネズエラは伝統的に難民受け入れ国で、豊かな国でした。しかし、政情不安、社会・経済混乱、食糧難、人道危機となり、盗賊、搾取、虐待から逃れ、800万人近い民が避難を強いられました。現在、コロンビア、ペルー、チリなど南米とカリブ諸国に難民として受け入れられています。

◎ベネズエラ：人口2900万人。首都カラカス。スペイン語。

◎グリーンランドはデンマークの自治領。

◎ベネズエラからすぐに、グリーンランドが来た。トランプ大統領がグリーンランドが欲しいと言い出した。無知なオレで笑ってしまいが、グリーンランドとアイスランドの区別がつかなかった。デンマークから見てアイスランドは小さい島で、グリーンランドはアイスランドの先、ほとんど北極で、オーストラリア大陸の1/3ぐらいの大きな島である。バイキング？がまずアイスランドを見つけ次にグリーンランドを見つけた。彼らがグリーンランドに人が集まって欲しいということで“緑豊かな島”と名付けたが、ほとんど雪と氷の島らしい。それに反して、アイスランドは温泉もあり緑地もあるらしい。グリーンランドが現在はデンマークの自治領だが、過去も未来もこれだとは限らないか。

冷戦時代の再来かな。アメリカと中国・ロシアの対立、どうもこうも世界というものは、オレがオレが、ウットコがウットコが、の世界である。難しいことなんてなく、時空を超えて、オレがオレが、ウットコがウットコが、だけの地球なんだね。

◎話は飛んで、アウトドアーの話。先日来“親父キャンプ”というドラマを見た。20分ぐらいの短編がいくつも数があった、近藤芳正さんという俳優が演じていた。設定では、元町中華料理を営んでいた60歳前のおっさんが、店も妻子も捨てキャンプ場で生活するという設定で、セリフがほとんどなくカメラが回るドラマであった。アウトドアー好きのオレであるが、キャンプ場で長逗留なんてしたことがない。おお、と驚き納得したのが雨の日の過ごし方と、毎回の料理の作り方である。

アウトドアーとはいえ、オレは山に登る人なので、山の麓、もしくは山の上でテント泊をしていた。同じ場所はせいぜい2泊で、寝るためだけのテントだった。荷は軽く小さくザックに詰めて歩かなければならない、ジジイになって荷がますます苦痛になってきた。テントと寝袋、2日間の食糧を背負うと2時間も歩けなくなった。いえいえ若いころは、80リッターのザックで何時間も歩けたんだけどね。

◎アウトドアーでいやなのは雨である。雨を嫌っているのは毎日のアウトドアーは乗り切れない、雨の日の過ごし方はオレの頭痛の種だった。雨よけ用のテント：タープ、おお、これはこんな風に使うものなのかと初めて知り感心した。しとしと雨の降り続くなかでもタープがあれば雨には降られない濡れてこない、この下に座って寝るなり、本を読むなり、食事をするなり、いろいろこなせそうである。

◎山の食事：これは空腹を満たす、エネルギーを確保する、この2点だけで喰ってきた。山の上り下りは重労働なので腹は減る、まして燃費の悪いオレは常に何かを口にしていなければ動きが止まってしまう。必要だから喰っているとは言わないよ、オレが口にすることはすべて美味しい、まずくても美味しい、これがオレである。今回のドラマ、中華の料理人の主人公は、中華鍋で次から次にうまそうな料理を作り上げていく。ほおお、感心して見ていた。これからジジイになってますますこういうキャンプの真似事をしたいものだと思った次第。

- ◎川崎・萬賀両さんと3人で明神平、朝7時に東岸和田に行かねばならない。三国ヶ岡、河内長野・岸和田という場所は同じ大阪府とは言え殆んど未知の郷、路線図で検索すると大阪駅からJR 関空快速に乗ると簡単に行けるとわかった。阪急茨木を朝の5:18発の電車に乗らねばならない、ということは4時過ぎに起きなくては、ということは9時過ぎには寝なくては、なのでいっぱい飲んで眠剤を飲んで寝入った。テルモスの湯を詰め荷を担いで歩いた、電車に乗った、関空快速に乗った、予定通り東岸和田で川崎車に乗せてもらった。萬賀さんとはかつらぎ西ICで合流3人で川崎車で出発。
- ◎9時過ぎに大又の駐車場に到着した。休みの日じゃないけれど、車が10台近く並んでいる、明神平は人気の場所だ。2.3日前から寒波襲来、自宅にいても空の上で風がヒューヒュー泣いている、河原に出てもネックウォーマーは外せない。今朝は、厳しい寒さは続いているが、暗い中を阪急茨木駅までの歩きはさほど寒くなかった。東吉野村役場辺りは雪が無い、大又に近づいても雪は一切なかった。車の扉を開けると冷気が身にしみダウンも防寒具も脱げない、とにかく寒くヒエヒエである。靴ひもを結び、スパッツを着けた。空を見上げると青い空、上の方の山肌にも雪が無い、「寒いのに 雪は見当たらないねえ 今日 樹氷はないかも」
- ◎9:30 出発。「針葉樹の森は 樹林帯は おもしろ ないねえ」鉄の階段を上り、オットト、という傾斜を登っていく。乗越までの2時間足らずは針葉樹の樹林帯である。
- ◎<川崎記>前日は日本海側大雪で近畿地方山間部も雪予想でしたが登り始めると全然雪なし。それでも千m位からは雪が出てきます。萬賀さんと画伯は早めにクランポン(アイゼン)、画伯は6爪・萬賀さんはチェーンアイゼン。私はクランポン着けずもう少し前進し急斜度が始まる少し手前で6爪装着。杉の植林を抜けると雪が増えて傾斜もきつくなってきますが、画伯はストックを使わないのが流儀なんだと。それに厚着ですね。僕は少々寒くても汗かくの嫌いだけど。気温も低いし強風です。歩くの停めたら寒い。
- ◎画伯はストックを使わないのが流儀なんだと>>これはね、たしかにまわりを見渡すとほとんどの方がWストックで歩いている。「ええ そんな時代か 澤山さん そうらしいで スtock無いのは オレだけみたい」皆さん、「楽だ 安全だ」というけどオレは怖い、石にストックを突いて滑ったら、とか、手がふさがってモノが、石や木が掴めないと思ってしまう。オレはほとんどの斜面で両手で草木や岩を掴んで歩いている。
- ◎乗越到着。せっかくピッケルを持ってきたのに出し忘れ、乗越手前の急登、雪に手を入れ慎重に登った、「もうちょい もう空が見えてる そこだ」オレは寒がりである、いつも通り毛糸の帽子に防寒着のフードを被って歩いている、これで丁度いい。もっと寒くなればダウンがあるとニヤリ。
- ◎稜線の尾根道にはたっぷり雪が積もっている、50CM60CM ぐらいいは積もっているのでは。目の前に薊岳と木の実矢塚がポコリ見える。1300M ぐらいいの高さブナを中心にまだまだ高い樹が林立の風景。山の記録写真では樹氷が見事だったが全く見られない。まったくないという不思議、風か気温か湿度か??である。
- ◎<川崎記>風が弱い処でお昼します。画伯お弁当出しました。御飯は凍ってないそうですが。冷たくてもやわなお腹じゃないんだと。驚いた、僕と萬賀さんはパンと熱い紅茶ですけど。ここで萬賀さんはSnowShoe。Traceは薄くついてますし雪は深くはないので2人はワカンは履かずクランポンのまま。しかし雪が増えてくるとやはりSnowShoeには負けるね。前山の手前で私はワカン付けました。途中で出会ったのは薊へ向かうCoupleだけでした。前山から穂高明神は省略。明神平はまだ枯草が点々と埋まりきらず出て全面真っ白じゃなかった。今年は雪が少ないのかも。むろん樹氷はなし。
- ◎そういや真冬でも弁当だね、パンは休憩時に齧るが昼飯はごはんだね、冷たいが美味しい、それにカップにスープレの粉末を入れテルモスの湯を注ぎ飲んだ。今日は湯を2回入れ直したがやはりぬるい、ゆるいテルモスだ。
- ◎結局最後まで6本爪アイゼンで歩いた。ワカンはザックに入っているが、どうも慣れていないのとアイゼンを外し、ワカンを装着し、また次の地点でその反対をするのが面倒という邪魔くさがりである。
- ◎明神平はさっさと通り過ぎ下って行った。今日の二人は登りも下りも慎重にゆっくりペース、オレにはいいペース、ジジイになると慌てちゃだめだ。寒い冷たい、氷瀑がすごい。

- ◎久しぶりに、京都の街中を歩いている。大文字山の名前はよく聞いていた、山田さんが、「登ってきた」とよくおっしゃるが、食指が動かなかった。調べると、京都の東、東山 36 峰のひとつじゃないかな、と思っている。
- ◎改めてこのあたりの航空写真を見ると、方向感覚の悪いオレの誤解がすぐにわかった。平安神宮の東が大津市だ、山科はもっと大津寄りと思っていた。大文字山は東山 36 峰のひとつという想像はあたっていた、500M 足らずの山系のひとつ、比叡山系の最高峰は延暦寺に近く 850M 足らずかな。大文字山へのルートは銀閣寺から登ると大文字で五山の送り火の火を点ける竈を通りてっぺんへ、南禅寺から、山科駅から、大津市の三井寺からと登山口がいくつかあるようだ。
- ◎なんで“大”なの：五山の送り火：弘法大師が大の字型に護摩壇を組んだとか。五山の送り火は、大・妙法・船形・左大・鳥居の五山。京都以外に、大館、箱根、甲斐一ノ宮でもやっている。
- ◎お盆に帰ってきた死者を、再びあの世に送り出す行事。そういやお盆は、死者が帰ってくると聞いたなあ。
- ◎阪急四条河原町駅から地上に上がって、八坂神社の階段を上がった。「円山公園は まっすぐ 奥だったかな」何度も来ているが忘れていた。小さくなった枝垂桜を見て、イモボウを見て、知恩院にやって来た。先日の万博にあった金色の輪が境内に飾ってあった。三条通を蹴上げの方に、ミヤコホテルかな、そう間違ってたかった。インクラインがある、線路が健在だ、京都らしいね。そこから南禅寺に到着。どう歩いたのか小川に出た、「これが 哲学の道かな」川沿いを北に向かって歩いた。哲学の道がこんなに長いとはびっくりしたが、銀閣寺の方にやって来た。10 時四条河原町を出て 12 時頃に銀閣寺付近に着いた。どこかで弁当にしようと進み、登山道に入り口の行者の森に座っておにぎりとスープを飲んだ。
- ◎インクライン：蹴上げ船溜に到着した船を、荷下ろしすることなく下の南禅寺舟溜まで船ごと台車の乗せ運ぶ設備だった。もっと言えば滋賀県の琵琶湖と京都が水路でつながったんだねえ。
- ◎哲学の道、川の傍を歩いていると汚い（失礼）おっさんが、「あんたもやってみ あんたも」と歩く人に笹船を配っている。「橋の上から ぽいと 落とす 上手く落ちたら 人生輝く 幸せになれる」おっさん、箱にいくつも手造りの笹船を置いている。昔、たこ焼きなんかを入れていた木の皮、匏（かんな）で削いだような木の皮を船の形に作り、花を 2 輪乗せて渡してくれた。2M ほど下の川面に落とすと上手く流れていった。人生、些細なことで嬉しいものだ、うれしくなると笑顔が出てくる、これが輝くということなれば、あのおっさんは大哲学者だね、ほほほ。
- ◎銀閣寺に来た、「おお このあたり 知ってるぞ」参道を歩きながら、「え ここも こんなに 土産もんやがあったかな」外国人が多い、従兄弟の啓介さんちに来たのは 30 年 40 年前だったかな。大文字山の標識を見ながら進み、入り口の祠のそばでみんなで昼飯を食った。
- ◎昼飯が終わり登り始めた、普通の山道、えんやこらである。「おお ここが竈」火を燃やすところ、ここで薪を輝かせるらしい。この場所から 5 方向に大の字が伸びるようだが、その伸びる先は皆目わからない。京都市内が一望できる、京都タワーはわかるが、と京都人らしき人に聞くと、「こんもりした森が？ え 手前が 吉田山 向こうが御所」「おお わかりました」今日は晴れて温かいが全体のぼんやりしらせている。
- ◎2 時頃に大文字山のとっぺんにやって来たここも眺望が開けているがやや北の方が見えるのか、「逢坂山かなあのカサネは 醍醐寺かな 川が見えるが 大阪湾に流れる川かな」京都は土地不案内である。西山の方は霞んで、京の街中も霞んで、「とにかく ほわ〜っと 幽玄の世界 乳白色の風景」
- ◎「さ 山科に降りましょう ビールが待っている」と歩き出したが、都市近郊の山、道がいっぱいあってどちらも山科と道しるべ、「こっち あっち」と迷いながら 3 時半に居酒屋に入った、飲んだ。
- ◎まもなく山科駅というという山の麓に“黒田峯夫”の彫刻が点在していた。「好きなものもあるが やなものもあるな」と帰って調べると、いくつかの展覧会をされている。そのつど作風が変わる、極端に違う、これはアカン、なんでもうちよー貫性が無いものか、それぞれになかなか面白いのですが・・・それにしてもでっかい敷地に野外作品が点在、木造のしっかりしたアトリエも 2.3 棟あった。

讃岐国女行冥途其魂還付他身語 20-18 くさぬきのくにの をむな めいどにゆきて その たましひ
かへりて ほかのみにつく こと >

◎閻魔王、その家来の鬼、冥途、現世、たくさん出てくるユーモラスなハッピーエンドストーリー。

◎疫病神：聞きなれた神さん、昔の人は、病気も貧困も運が悪いのも、疫病神のせいにしていたのかね。

◎閻魔王：子ども時代に、「嘘をつくと 閻魔さんに舌を抜かれるぞ」と脅された思い出があるが、こういうことは今でもいうのだろうか。またしばらく前、当ブログに登場した小野篁が閻魔王を補佐して、裁判をしていたとか、ということも聞いた。

閻魔王は、インド発で、民間信仰、仏教、における地獄・冥界の王、死者の生前の罪を裁く。

日本では、地蔵さんと同じだそう。地蔵も閻魔も同じとはびっくりだけれど・・・。

◎今は昔、讃岐の国山田郡（香川県三木郡あたり）にひとりの女がおった。姓は布敷氏である。この女が重い病気にかかったので、ご馳走をりっぱにととのえ、門の左右にお祭りし、疫病神のご機嫌を取ろうと祀った。そのうち、閻魔王の使いの鬼が病気の女を呼び出し（死ぬこと）にこの家に来たが、鬼は歩き疲れていたの、この祭ってあるご馳走を見てすっかり引き付けられて、それを平らげてしまった。やがて鬼は女を捕らえ連れて行ったが、道々女にこういった。「オレはお前の供えものを食べた この恩返しをしたいが どうだ おまえと同じ名前 同じ姓の者がいるか」女は、「はい 同じ国の 鵜足郡（うたりのごおり）に 同姓同名の女がおります」と答えた。

鬼はこれを聞くと、この女を連れて鵜足郡の女の家に行き、その女に面と向かって真っ赤な袋から取り出した一尺ほどの鑿をその額に打ち込み、引っ立てて連れ去った。

さて、閻魔王はこの鵜足郡の女を連れてきたのを見て、「この女は呼び出した女ではない お前は間違っで連行したのだ だから しばらくこの女をここにとどめ あの山田郡の女を召し連れてこい」とおっしゃった。鬼は隠しおせせず、ついに山田郡の女を連れてきた。閻魔王はこれを見て、「まさにこれが呼び出した女だ あの鵜足郡の女は返してやれ」とおっしゃる。だが、すでに三日経ち、鵜足郡の女の死体は焼き捨ててしまっていたので、身体が無くなり、女の魂は帰り入ることができず、またもとにもどって、閻魔王に、「私は家に帰されましたが 身体が無く魂のよりつくところがありません」と申しあげた。すると閻魔王は使いの鬼に、「あの山田郡の女の死体はそのままか」とお尋ねになる。使いが、「そのままでございます」と答えると、王は、「それでは その山田郡の女のからだをもらって そなたのからだにするといい」とおっしゃった。

このため、鵜足郡の女の魂は山田郡の女のからだに入った。と同時に息を吹き返し「ここはわたしの家ではありません 私の家は鵜足郡です」という。

父母は娘が生き返ったのを見て泣かんばかりに喜んだが、これを聞き、「お前はわが子じゃ なぜそんなことをいうのだ みんな忘れてしまったのか」という。だが女も、耳を貸さず、ひとり家を出て鵜足郡の家に行った。

その家の父母は見知らぬ女が訪ねてきたので驚き怪しんでいると、女が、「これはわたしの家です」という。父母は、「あなたはうちの娘ではありません うちの娘はすでに火葬してしまいましたよ」と言った。

そこで女は冥途で閻魔王のおっしゃったことを詳しく語って聞かせた。これを聞いた父母は涙を流して感激し、女に生前のことをあれこれ聞いてみると、答えるところがひとつとして娘の生前ことと違ってない。それで身体は娘ではないが、魂はまがう方なく娘であるから、父母は喜んで、この女をこの上なくかわいがり養育した。

一方、かの山田郡の父母もこれを聞いて来てみると、魂は違っているがからだはまさに我が子であるから、心から愛おしみ可愛がった。こうして両家でこの娘を承諾し、ともに養育することになったので、娘はこの両家の財産を自分のモノにするようになった。

◎「そうだ 最初のひと筆目から 決めなくっちゃ」白いキャンバスに向かう、絵の具を出して色を作る。作ると言っても絵の具箱に入っている絵の具のチューブから色を出すだけだ。オレはおおよそ絵の具ま混ぜない人、チューブから出したままの色にジェルを混ぜ水を垂らし粘度を調節していく。油絵具ならオイルを混ぜていく。床に白いキャンバスを置き、その絵の具を太い刷毛で、塗る、刷く、置く、擦る、それから少し水っぽくして、置く、垂らす、そんな作業がまずの一発目。この一発目が大事である。この時、色が白いキャンバスの上で見事に踊ってくれたらそれでいい、それが一番、乾けば次に進める。

◎亡くなった京美出身の女えかき、大森さんが若いころにフランスに留学した時に教わったことは、絵の具の手作りだそうだ。知人の中で何人か、その邪魔くさい作業をやっている奴がいる、今やネットの時代で、「油絵具の手作り」なんて検索すれば、実際にその作業をやっている方々の手作業が見られる。ほとんどの方は、化学薬品から作られた色の粉を押しつぶして油を混ぜ根気よく練っている。フェルメールのように青い宝石を砕いてください練っている人はいないねえ。日本画の人はいるかもしれないけど。宝石だからなんともいっても値が高い。

◎1月の終わりの今日、河原は寒い。予報氏の話によると世界で一番寒い北極の冷気が、素直に流れず、気圧の関係であるところで膨らんであるところでへっこんだりしているらしい。日本付近やアメリカ付近で大きく膨らみ、他の場所では大きくへこんでいるとか。ニューヨークはマイナス 40 度だとか、日本はそこまで寒くはならないがとにかく雪が降る。日本の雪は世界のスキーヤーにとってあこがれの雪らしい、パウダースノーなんて言うらしい。スキーができないオレにとって、雪の良し悪しはわからないが、雪山は知っているので、雪は知っているが日々その顔を違うので偉そうなことは言えない。いずれにしても冷気がやってくると寒い。日本列島も日本海側や東北地方は大雪らしい。関西のこのあたりも福井や滋賀では雪が降る。日本海があり琵琶湖がある関係でそうなるらしい。オレの幼少時代はオレのつたない記憶では、年に 1.2 回は 5 センチぐらいの積雪があったように思うが、そんな雪も最近はまれになってきた。最近雪が降るには降るが、地面に落ちて消えていく、すぐに融けてしまう、しんと雪が降るなんてことはない。

この河原、家を出るときは寒いのに嫌だな、なんて思いながらも、毛糸の帽子をずりさげ、ネックウォーマーをずりあげ、めで帽スタイルで顔を包み河原にやってきたが、10 分も走るとなんだか身体がほっこりしてきて、「ほほほ 身体を動かすのはいいねえ」とご機嫌で走っている。

◎ジジイになって、まだまだ新鮮な絵が描けるのか、何年か前のあの鮮烈さが出せるのか、ほんわかまったり路線に陥ってしまうのか、自分のことはなんとも、いやもうわからないね。50 歳代、60 歳代の頃に、絵描きは長生きするなんて言われていたが、長生きしたとて、若いころのあんな絵が描けない、「ジジイエカキの皆さんはとろ臭い絵を描いてるね」と思っていた。時間のかかる絵を描いていた方がたはずで 60 歳を過ぎると描けなくなっておられる。「ま オレは かきなぐりの絵だから 描けるぞ 描くぞ」である。

◎最近帆布が手に入らない、もう何十年も帆布のキャンバスで描いてきた、綿の帆布の絵具のノリが気に入っていた。綿キャンは絵の具を吸い込む。和紙に水彩を描く感覚かもね、和紙は吸い込み過ぎて発色が鈍化するかもしれないが、適度に吸い込み、上手い具合に弾いてくれるとありがたい。とはいえ、そんなことごちゃごちゃいうけど、絵がよけりや文句なし、それが最高なんだ。